

- 1 単元名 「『いえがく』（自主学習）がんばろう！」いえがくおすすめカードを作ろう  
教材名 「『ほけんだより』を読みくらべよう」（東京書籍3年上）
- 2 付けたい力 書き手の意図に応じた表現の工夫を読み取る力(C 読むこと イ 説明的な文章の解釈)

### 3 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「『いえがく』おすすめカードを作る」ことを位置付けた。本単元は、『いえがく』（本校での家庭学習の呼び名）に進んで取り組もうとする姿を自分たちの力で広めていこうとすることを目的として展開する。おすすめカードには、『いえがく』の大切さを伝える二つの宣伝文を使い、どちらかを選択してカードを作る。そのためには、書き手の表現の意図を読み取り、意図に応じた事柄の取り上げ方や説明の仕方の工夫をとらえ、どのような理由でその宣伝文を選んだのかをはっきりさせることが必要となる。そのことは、「意図や目的に応じた表現の工夫を読み取る力」（C 読むこと イ）という本単元のねらいを実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

### 4 単元について

#### (1) 児童観（在籍\*人）

<実態調査>前教材「本にしたしもう」「自然のかくし絵」の学習より

	項 目	自力解決できる	支援がないとできない
①	読書を通じて、自分の考えと根拠を明らかにしながら、おすすめの本の紹介カードを書くことができる。	*人	*人
②	文章の中心となる語や文をとらえて、段落ごとに要点をまとめることができる。	*人	*人

児童は、3学年4月に学習した「本にしたしもう」で、読書への関心を高め、読書範囲を広げる態度を養うために、「読んだ本について、好きなところをカードに書いて紹介する」という言語活動を行った。また、5月に学習した説明的文章教材「自然のかくし絵」では、段落ごとに要点をまとめて表に表すという学習を行うことを通して、文章の中心となる語や文をとらえる力を付けてきた。

「おすすめの本の紹介カードを書く」という活動を通して、\*人中\*人の児童が読み取った内容をもとに自分の考えと根拠を明らかにしながら書くことができるようになった。また、書いたカードを読み合うことで友達が読んでいた本に興味をもち、自分も読んでみようとする児童の姿も見られた。しかし、中心となる語や文をとらえて読む力は、\*人中\*人の児童にしか身に付いておらず、文章全体を理解するために内容の中心をとらえながら読む力が不足している。

#### (2) 教材観

本単元は、二つの文章を読み比べるという学習活動を取り入れた「ほけんだよりを読みくらべよう」を中心教材として構成する。

本教材は、「食べたらすぐに歯を磨こうという気持ちをもたせる」という目的は同じであるが、事柄の取り上げ方や説明の仕方が異なる2つの文章をもとに共通点や相違点を探しながら読み比べることで、書き手の意図に応じた表現の工夫を読み取る力を身に付けることができる教材である。

ほけんだよりは、本校でも配付されているお便りの一つであり、児童が目にする機会も多い身近な素材と言える。教材文では、導入部分で養護教諭という書き手の存在を意識させている。そして、書き手の思いや読み手が意識すべき三つの観点が挙げられている。その観点とは、①書いた人の伝えたいことは何か。（目的）②書いた人は、事柄の取り上げ方や説明の仕方に、どんなくふうをしているか。（表現の工夫）③伝えたいことをうまく伝えているか。（効果）《東京書籍3年上69ページ》である。これが読み比べをするときの観点となる。読み比べる二つの文章は、「はじめ」「中」「終わり」の3部構成になっており、「はじめ」と「終わり」に同じ文が使われている。児童は、これまでの学習を通して、始めと終わりに書き手（話し手）の伝えたいことを書く（話す）と効果的であることを経験してきている。このことから、二つの文章に共通する「食べたらすぐ歯を磨いてほしい」という書き手の意図に容易に気付くことができ、「中」の部分により注意深く着目し、書き手の意図に応じた表現の工夫を読み比べるのに適した教材である。

### (3) 指導観

本単元の指導のねらいは、学習指導要領（C 読むこと）の第3学年及び第4学年の指導事項 イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」に重点を置くこととする。本単元においては、教材「ほけんだよりの読みくらべよう」を使って、書き手の意図に応じて取り上げる事柄や説明の仕方の違いを見付けながら二つの文章を読む学習過程で、書き手の表現の工夫を読み取る力を養うことをねらう。

単元の導入（第一次）にあたっては、3年生以上の児童が取り組んでいる『いえがく』を学校みんなにがんばろうという気持ちをもって取り組んでもらえるように宣伝するという目的をもち、友達が書いた二つの宣伝文のどちらをみんなに勧めたらよいかを考える。そして、おすすめカードを書いて宣伝するという設定にする。

第二次においては、歯磨きの大切さについて書かれた二つのほけんだよりの読み比べ、事柄の取り上げ方や説明の仕方の違いから書き手の表現の意図を読み取っていく。一つ目の文章は、むし歯の原因を細菌、歯垢等の科学的な言葉を使って説明し、歯磨きが予防になることを伝え、歯磨きの必要性を納得させるように書いている。二つ目の文章は、むし歯になるとしみる、食べられなくなる、ねむれない等むし歯の症状や苦痛に関する言葉を使ってむし歯の怖さを強調し、歯磨きをしなくてはならないという気持ちを強くもたせるように書いている。一つ目の文章では、科学的な言葉を、二つ目の文章では、むし歯の症状や苦痛に関する言葉をとらえていくことで、それぞれが違った角度で書かれていることに気付くことができるようにしたい。また、自分だったらどちらの文章を読むと歯を磨こうという気持ちになるのかを考え、おすすめカードに内容から見付けた言葉や文を使って、選んだ理由が書けるようにしたい。

第三次では、『いえがく』について書かれた二つの宣伝文を読み比べ、井野小のみんなにがんばって取り組もうとする気持ちをもってもらうためにおすすめカードを書く。自分が選んだ宣伝文のよさを他者に紹介するためには、どちらの方ががんばろうという気持ちを強くもつかという観点で選び、選んだ理由をカードに書く必要がある。教材文で学習したことを生かして中心となる語や文を見付けながら読み、内容をとらえられるようにしたい。また、おすすめカードを書く際に、選んだ理由を友達と交流することで、自分と同じ考えや違う考えを知ることができるようにしていきたい。出来上がったおすすめカードは、校内に掲示して他学年の児童に見てもらえるようにし、感想などを書いてもらって他者からの評価を得られるようにする。

最後に、学校みんなに『いえがく』を宣伝するために学習活動を行ってきた自分の学びを振り返り、学んだことをノートにまとめたり、学習の様子について友達と交流したりする。その後の『いえがく』の取り組みについて、児童が作ったおすすめカードによって、どのような効果があったのかを評価する機会を設けたい。

## 5 単元の目標

- 書かれた文章を繰り返し読んで、書き手の意図に応じた表現の工夫を進んで見付けようとする。  
(関心・意欲・態度)
- 二つの文章の共通点と相違点をとらえながら読み、書き手の意図に応じた表現の工夫を読み取ることができる。  
(読むこと)
- 指示語や接続語の役割が分かり、文章の構成に気付くことができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

## 6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・書かれた文章を繰り返し読むなどして書き手の意図に応じた表現の工夫を読み取ろうとしている。	・事柄の取り上げ方や説明の仕方の違いから、書き手の意図に応じた表現の工夫を読み取っている。	・接続語が文と文のつながりに果たす役割について、理解している。

## 7 単元の指導計画（9時間扱い）本時は7時間目

第一次 井野小のみんなに「いえがくをがんばろう」という気持ちをもってもらうために宣伝をするという目的をもち、単元の学習計画を立てる。・・・1時間

第二次 教材「ほけんだよりを読みくらべよう」を読み、書き手の意図に応じた表現の工夫をとらえる。

・・・3時間

第三次 自分がおすすめる方のほけんだよりのおすすめカードを書く。

・・・2時間

時	主な学習活動	主な評価
① 時	友達が書いた2つの宣伝文を読んで、井野小のみんなに読んでもらいたい方を選び、選んだ理由を考え、自分の考えを友達と交流する。	・宣伝文を繰り返し読んだり、友達と進んで交流をしたりして、書き手の意図を読み取ろうとしている。 (関心・意欲・態度)
2	「いえがくおすすめカード」を書く。	・書き手の意図に応じた表現の工夫を読み取っている。 (読む能力)
3	「いえがく宣伝文」と「いえがくおすすめカード」を校内に掲示し「いえがくがんばろう！運動」を行う。 単元を通じた自分の学びを振り返る。	・分かりやすくおすすめカードを書くためには、理由を表す時に使う言葉や接続語を使って書くことと効果があることに気付いている。 (言語についての知識・理解・技能)

## 8 本時の学習

### (1) 目標

「いえがくの宣伝文」の事柄の取り上げ方や説明の仕方を根拠として、選んだ理由を交流することによって、書き手の意図に応じた表現の工夫を読み取ることができる。

### (2) 準備・資料

宣伝文、キーワードカード（読む観点）、ワークシート、ほけんだよりおすすめカード

### (3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>みんながいえがくをやる気になるのは、どっちのせんでん文だろう。</p> </div>	・井野小のみんなに「いえがく」のおすすめカードを書くためには、自分が選んだ理由や考えを書く必要があることを伝え、今日の学習の目的意識・相手意識をしっかりとらせて学習に入るようにする。
2 宣伝文を選び、理由や自分の考えをワークシートにまとめる。 【自分タイム】 (1) 解決の見通しをもつ。 ・「いえがく（自主学習）をがんばる気持ちになる」という観点で宣伝文を選ぶ。 (2) 選んだ理由をワークシートにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈一つ目の宣伝文〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で進んで発表できるし、成績も上がると書いてある。成績が上がるのは、うれしいからやる気になる。</li> <li>・難しい漢字が書いて、計算がずらずらできる大人になれると書いてある。そうなりたいと思うから。</li> </ul> <p>〈二つ目の宣伝文〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の本が読めないと書いてある。仕事ができないと困るから。</li> <li>・友達と待ち合わせできないと書いてある。友達と遊べないと友達がいなくなってしまう、寂しいから。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの文からがんばる気持ちになると思ったのか、その文を選んだ理由をはっきりさせていくことを確認する。</li> <li>・前時までの学習を想起しながら解決の見通しがもてるように、前時で書いた「ほけんだより」おすすめカードのモデルを掲示しておく。</li> <li>・選んだ理由を短い文でまとめられるように項目ごとに分けたワークシートを使うようにする。</li> <li>・どちらを選択するかで迷っている児童には、自分だったらどちらの宣伝文の方ががんばろうという気持ちになるかを考えさせることで、対話を通して選択を支援する。</li> <li>・やる気になると思ったところが見つからない児童には、選んだ宣伝文を読んだ時に、どの言葉や文からいえがくをがんばろうとする気持ちになるのかを探してサイドラインを引くよう個に応じ助言する。</li> <li>・その文を選んだわけが書けずにいる児童には、やる気になると思った言葉や文を読んで、自分はどんなことを思うのかを問いかけることにより、その答えをまとめられるようにする。</li> <li>・設定した時間よりも早く考えをまとめられた児童には、自分の文を読み返したり、自分の考えを付け加えたりするよう促す。</li> </ul>

3 友達と考えを交流し合う。 【交流タイム】

〈交流タイムの進め方〉

- 1 ○○さんは、どっちを選んだの？
- 2 私は、○つ目。
- 3 どの文からそっちを選んだの？
- 4 ～と書いてあったから。
- 5 それで、○○さんは、どう思ったの？
- 6 ～だから、～だと思った。
- 7 私の理由はやる気になる？
- 8 ～のところがやる気になると思う。  
～のところはやる気になるのかな。

4 本時の学習を振り返る。

- ・選んだ理由を考えることができて、よかった。
- ・友達と自分の考えを話すことができて、楽しかった。
- ・友達がこんなことを考えたのだなというのが分かった。

- ・お互いに考えが深まる交流ができるような2人組を意図的に組んでおく。
- ・紙を見ながら、読むだけの交流にならないように質問に答える形で、交流するように促す。
- ・質問に答えられず戸惑っている児童には、「ワークシートに書いた通り～です。」と答えると分かりやすいことを助言する。
- (評) 宣伝文を繰り返し読んだり、友達と進んで交流したりして、書き手の意図を読み取ろうとしている。【関心・意欲・態度（観察）】
- (評) 選んだ理由を根拠として、書き手の表現の工夫を読み取っている。

【読む能力（ワークシート）】

- ・本時の学習を振り返り、分かったことや次の学習でしたいことをワークシートに書くよう指示する。
- ・数人に発表させ、全体で、学習への取り組みや課題に対しての評価を共有できるようにする。
- ・次時は、「いえがくおすすめカード」を書くことを知らせ、意欲をつなげていけるようにしめくくる。